



学校だより

文化祭を終えて 坂城高校



坂城高校では、7月3日・4日に第66回葛尾祭を開催いたしました。4日の一般公開では、地域の子どもたちをはじめ、495名の方にご来校いただきました。心より御礼申し上げます。今回は葛尾祭の運営に携わった3年生の声を届けたいと思います。

3年 山崎温翔

高校最後の文化祭、準備期間から本番までたくさん思い出ができました。そんな思い出の中から印象に残っているものをいくつか紹介したいと思います。

まず1つ目は、準備期間中葛尾祭実行委員として任されたアーチの準備です。最初任されたときはどんなアーチにするか悩みましたが、今回の文化祭のテーマが「千客万来」だったので、先生や友達にも様々な案を出してもらい、デザインが決まりました。去年使用したアーチの骨組みを使い、骨組みの補強、壁の色塗り、屋根の製作、取り付けとコツコツと進めていきました。

製作には同じ軽音部の仲間達を手伝ってくれて、とても頼もしく、僕がいなくても作業してくれる人が多かったので、葛尾祭に何とか間に合いました！

みんなありがとう！

2つ目は、クラスの屋台の準備です。僕のクラスは焼き鳥をすることになったのですが、みんな何を焼くか、値段はどうするかなど話し合いました。収益を考えながらも買っていただけ値段設定にかなりの時間悩みましたが、最後には納得いく値段になったと思います。他にも材料の買い出しや焼くための道具の準備などをしました。普段は授業中寝ているような友達もすごく率先して動いてくれて、とても頼もしかったです。結果、当日は大繁盛でした。頑張ったかいがありました。



3つ目は後夜祭の「睡蓮花」です。あれは本当に楽しかったです。生徒をみんな巻き込んでステージで踊りまわったのはとても記憶に残っています。実行委員長センス抜群です。

他にもたくさん思い出がある最高の文化祭だったと思います。この文化祭を忘れることは絶対にないです！

3年 金井美桜

今年の文化祭は、高校生活3年間の中で最も思い出に残る行事となりました。

文化祭の当日を迎えるまでには様々な出来事がありました。私はコロナにかかってしまい、約半分の準備期間は参加することができませんでした。ダンスのリハーサルやクラス看板作り、執行部の撮影などに参加できず、仲間負担をかけてしまったことが心配で、とても悔しい気持ちでした。

しかし、自分にもできることがあると考え、家でダンスの練習をしたり、クラスの人たちと連絡を取りながら準備の状況を確認したりしました。そして、学校に行けるようになってからは、少しでも皆に追いつけるよう、一生懸命準備や練習に取り組みました。私が休んでいる間、準備を進めてくれたクラスや執行部のみんなには本当に感謝しています。

文化祭1日目は学年別ステージ発表が行われました。ダンス発表では練習の成果を発揮することができ、大きな達成感を味わいました。また、他の人達の発表を見て、文化祭は多くの人の努力や支えがあって成り立っているのだと改めて実感しました。

2日目は朝から多くのお客さんで賑わい、私は執行部として「ねずこん焼き」の運営や、クラス企画のかき氷屋台の運営に携わりました。忙しい時間帯もありましたが、仲間と協力して最後までやり切ることができました。お客さんの笑顔や「ありがとう」という言葉を聞いたときはとても嬉しく、接客のやりがいを感じました。

高校生活最後の文化祭は、思うようにいかないこともありましたが、それ以上に最高の思い出になりました。これからも周りの人への感謝の気持ちを忘れず、これからの将来に活かしていきたいです。

9月1日は防災の日！

学校給食で「防災教育献立」を提供しました

防災教育は、地震や台風などの自然災害に対し、避難訓練を行ったり備えを見直したりして、自分の命を守るためにとても大切です。

防災の備えとして食育・学校給食センターでは、給食が提供できない時の対応策に、全国の栄養教諭・学校栄養職員が開発した「救給カレー」を取り入れられないだろうかと考え、8月31日（月）の「防災教育献立」として提供することにしました。今回給食で一度食べておくことによって、いざという時にも子どもたちは安心して食べることができます。

この機会に皆さんも災害時の備えについて考えてみませんか。



東日本大震災の教訓から、子どもたちの栄養バランス、心、体力のことを考え、救護物資が届くまでの「いのちをつなぐ」非常食として開発されました。カレーとご飯が入っていて、冷たいままでも美味しく食べられるのはもちろん、国産の原材料を使い、かつアレルギー特定原材料等28品目は不使用です。



食育だより

食育・学校給食センター
8212559

